

平成 29 年度 大学院学位記授与式式辞
学長 三島良直

式辞

本日、ご来賓ならびに列席の本学役職員、部局長とともに大岡山キャンパスにおいて、平成 29 年度大学院学位記授与式を挙行できますことは、本学全構成員の大きな喜びでございます。晴れて修士、専門職および博士の学位を授与される皆さん、おめでとうございます。心からお祝い申し上げます。海外からの留学生の皆さん、日本での勉強と研究を無事終わられほっとなさっておられると思います。そして、ご列席のこれまで学業を支えておいでになり、この日を迎えられるご家族の皆様には深く敬意を表したく存じます。

今日修士あるいは専門職の学位記を手になされ、これから社会人としての新しい人生をスタートする皆さんは、これまでの長い学生生活を終え、まったく新しい環境に身を置くこととなります。本学出身の皆さんへの産業界等からの期待は特に大きいことを自覚し、それに応えていくために日々の努力と研鑽が重要であることを心してほしいと思います。初めは与えられた仕事をこなすだけで精一杯になるのもやむを得ないと思いますが、経験を積み重ねるほどに、正確で説得力のある業務報告を提示できるよう、そしてさらにその先の進め方についての提案を示すことができるよう心がけてほしいと思います。すなわち、常に与えられた仕事をこなすだけではなく一歩先を目指しつつ進んでほしいと思います。また週末などの時間を利用して企業経営の基礎、語学力、教養等を身に付けていくなど、企業という組織の中でいかに自分を磨くかに主体的に取り組み挑戦し続けていただきたいと思います。

博士後期課程に進学される皆さんの大半は修士論文で取り組んだ研究テーマを発展させ、さらなる研究能力の進化に取り組むこととなります。科学技術の奥深さを体感し、時間をかけてこれと向き合う貴重な時間を過ごされることでしょう。その中で取り組む研究課題の目的と意義への理解を深めつつ、得られた結果の意味するものについて、指導教員や研究室の仲間たち、そしてその分野の学外の研究者たちとの忌憚のない意見交換を通して、説得力のある独自の見解を論文としてまとめていくプロセスを身に付けてください。博士の学位は特定の分野の研究論文としての価値だけではなく、そのプロセスを全うしたことに対する資格として与えられるものです。

本日、博士の学位記を手にする皆さんは、これからはアカデミアで引き続き研究や後進の教育に当たるか、企業等で研究者としてのキャリアを積んでいかれることでしょう。特に企業においては学位取得のために取り組んだ課題とは異なる新たな分野、課題に挑戦することと思います。すなわち博士とは、新たな課題解決に臨みこれを解決するために必要な要素とプロセスを設計し、遂行する資格を身に付けていることを自覚し、自信を持って力強く能力を発揮してほしいと思います。博士を修了する皆さんは本学が輩出する科学技術人材の最高峰であることを忘れずに世界を舞台に社会貢献を果たして行くことを期待しています。

私は2012年10月に学長を拝命して以来5年半の歳月を経てこの3月末で退任します。この間私は本学の教育の質を高め、研究力を強化するための様々な改革を進めて来ました。その結果、本学は先週3月20日に現在我が国に5校しかない指定国立大学法人に指定されました。皆さんは我が国随一の理工系総合大学であり、世界のトップ大学と伍していく本学の大学院修了生であることを胸に、社会に出る人、博士後期課程に進学する人、それぞれに自覚と熱意をもって、世界を見ながら誇り高く、自分自身の新しい価値を育むための挑戦に取り組んでください。舞台は世界です。私はそして東京工業大学はいつも皆さんを応援しています。

最後に、皆さんの明るい未来を心から祈って式辞といたします。

平成30年3月26日

東京工業大学長 三島良直